



エルフとやいほくるお話。





くっ...

グッ...

あ...

はあ

くっくっ...

ん...

はあ

ぐっ

はあ

はあ

はあ

今度も

しゅに...

ぐっぐっ

はあ

グッ

ありがと...

グッグッグッ

はあ...

はあ...

あ...

はあ...

この子の名前は
テア

迷子のエルフだ



30日ほど前
森の中で倒れている
テアをみつけた



これじゃ…
ダメなんです…



看病したのだが…

その場で目を
覚まさなかったので
村に連れ帰り



テアの衰弱は
マナ切れによる
ものらしい

マナ——エルフにとって
生命維持に欠かせない
その力を回復させるには

生命の源を得る必要が
あるらしく…

一番接種効率が
良いのが

精液だという…

む

わ

ふる

はっ

柔らかく
ひんやりとした
女性の指

近づく熱い吐息に
抗う事が出来なかった

頭は真っ白になって
いたが、躰は正直に
反応していて

はっ

ふっ

ふっ

ふっ

ぎゅ

とき

とき

たどたどしく
決して上手いとは
言えない舌の動き
だったが

その初めての
感覚に

温かいというより
熱い口の中

絡む唾液

気づけば
口の中で果てて
いた――

興奮した躰と
気持ちには

一度の射精で
治まらず

そのままベッドに
テアを押し倒して

ぴったりと閉じている
入り口をこじ開けた

ず

テアの中は熱くて
異物を押し出そうと
しているようだった

腰を打ち付けて
いくうちに

膣内は次第に
柔らかくなっていき――

キツイ肉壁と
溢れてくる蜜

次第に甘く

熱を帯びていく

苦しそう
だった声は

次の日

元氣そうなテアの姿を見て安心したが――

きょ…今日も…抱いてくちませうか…

それから何度も
舐める事を
求めてきた…

あーあ…
あらは…

あーがどう…
うーま…

回復の為と言われたら
断りにくいし

自分の欲望も
抑えられなかった





マナを取り戻す為に
セックスをしているのなら

快楽だけのセックスは
拒否するかもしれないが…

ある日、テアを気持ちよく
させるためだけに
徹してみた――

普段よりも念入りに
乳首を舐め、胸を揉む

ゆっくりと
舐めあげる

いつもは少ししか
刺激しないクリ●リスも

舌を膣に入れ
わざと音を立てたり

クリ●リスにペニスを
擦りつけると
挿入してほしいと
おねだりしてきた

挿入たあとは
強く奥まで
突き続けた

涎と愛液で
蕩け切った膣内は

いつも以上に
締め付けがきつく

膣内に出してほしいと
言っているようだった



そんな期待を
裏切るように

俺は熱をテアの
舐に吐き出した

白い肌はすっかり
上気し、舐を使って
精一杯呼吸していた



テアは絶頂の余韻に
浸っており

膣内に出さなかった
事に対して言及は
なかった

まだ
『セックスを愉しんでいるだけ』
か判断は出来ないの

色々な状況で
舐を重ねてみる
事にした

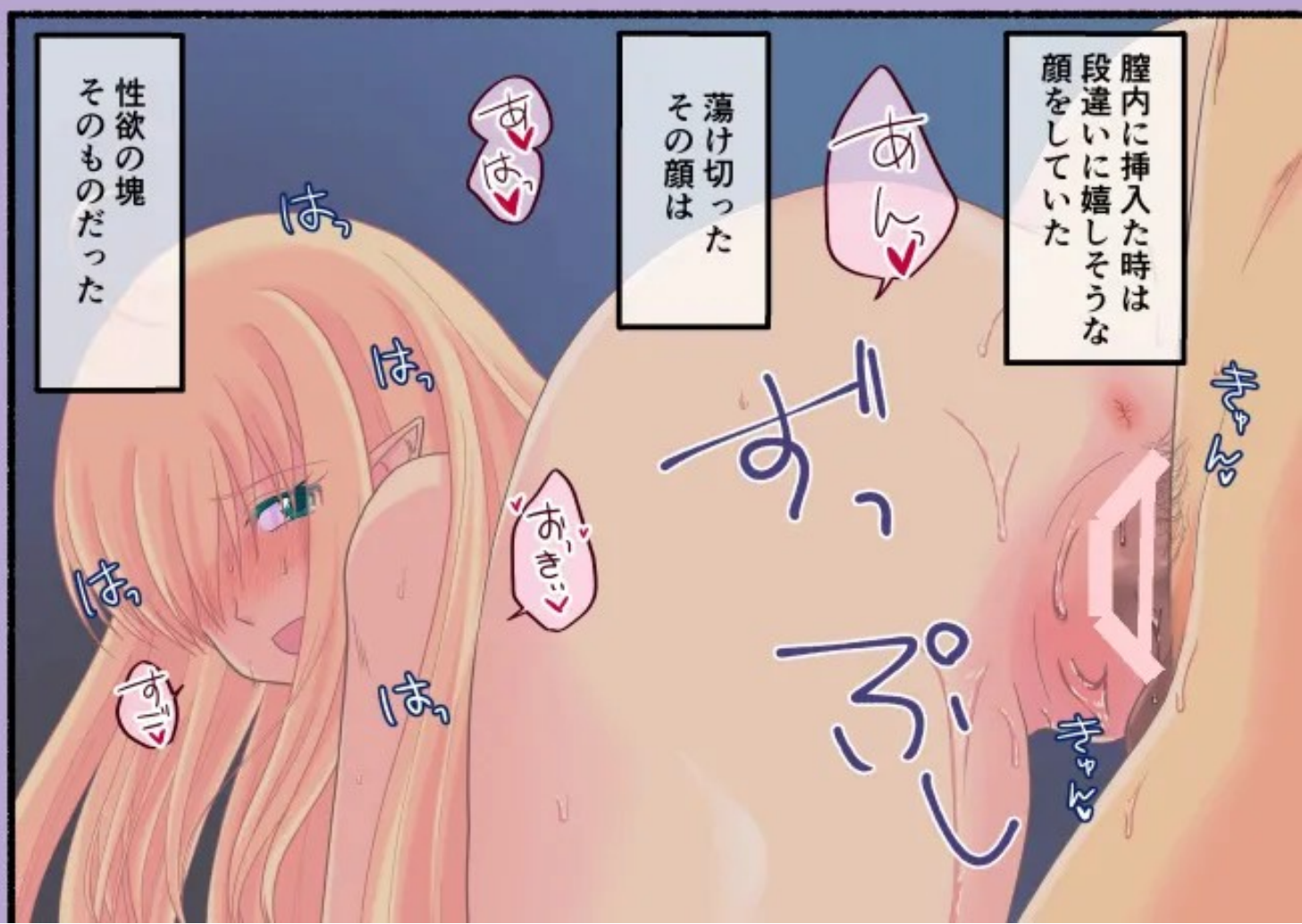


胸を使って
ペニスを扱かせた

ある時は仕事中に
呼び出し



ある時は家の裏手で
指だけでじっくり
膣内をほぐした



性欲の塊
そのものだった

蕩け切った
その顔は

膣内に挿入した時は
段違いに嬉しそうな
顔をしていた

その間、テアは
家を出て行こうと
しなかった

家の事を手伝って
くれるし
簡単な料理も
つくってくれる

話をしていて楽しいし

テアの笑顔は
独り身の俺に
癒しを与えてくれた――

ずん、

ずん、

ずん、